

第41号 (9月号) 2016年 9月1日	七里ヶ丘子ども若者支援研究所 それが社会参加だ！	住所:鎌倉市七里ヶ浜東 2-31-12 連絡先:090-7212-4055 Email:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp 編集長:新舛秀浩 発行編集責任者:滝田衛
--------------------------------	------------------------------------	---

8月28日講演会「ひきこもり～それって自己責任ですか～」開催

ひきこもり当事者の親と当事者による講演会

肌寒い夏の終わりの講演会、41名の参加ありがとうございました。不登校やひきこもり当事者や親御さん、学校の先生・相談員・校長先生、学童施設者、行政職員、そして障がいと共に生きていらっしゃる方々、市民の皆さま、御礼申し上げます。司会安川有里さんの穏やかな提案で、津久井やまゆり園で被害に遭われた方々への黙とうから始めました。誰もが生きやすい社会の実現を目指しての願いを込めました。島根三枝子さんの体験に裏付けされたコーディネートが絶妙でした。頂いた感想を紹介し、取り急ぎの報告といたします。



当事者を「多数派」の生き方に合わせようとした・・・

小幡沙織(会員、横須賀市議会議員)

「外に出ないことを選択している子を、自分の基準で『外に出られなくてかわいそう』と思って、無理に連れ出そうとしてた」という親御さん。「在宅就労が少ない」という当事者。それらの声を聞いて、改めて考えてしまいました。今まで不登校対策は学校への復帰を目指し、ひきこもり対策はどこかへ就職することを目指していたように思えます。結局それは当事者らを「多数派」の生き方に合わせようとしていただけなのかもしれません。働き方、生き方の多様性。新たな支援の方向性が見えてきた気がします。もちろん、学校に行くことを望む子にはそれが叶うよう、どこかへ就職することを望む人にはその支援を。講演会后、“総会のようなもの”が開かれ、講演会を聴いた参加者の取り組まれていること、思い等に触れる機会を持つことができ良かったです。

コラム風



医師:岩室信也さん(会員)は、新舛秀浩さん著書の巻頭で「日本人は健康や社会問題への対処法を考える際に、当事者の声、当事者の経験に学ぼうとしません。にもかかわらずいろいろな解決方法が提案されます。でも、自分が経験していないことは結局のところ他人ごとで、考察した対処法も机上の空論でしかありません。」と、当事者の声の重要性を寄稿くださいました。参加者からの感想でも、「新舛さんのユニークな語り『我が家は僕が右と言ったら右…』には思わず笑ってしまいました」、「川辺さんの親の気持ち痛いように、私も同じ立場だったのでわかり思い出させてもらいました」、「涌井さんのお話の中にあつた『ひきこもりは自由、でも自由は不安』というお話は心につきさるものがありました」、そして「(お二人は)しっかりとしたしゃべり方と考え方で、正直ひきこもりには見えませんでした」と。

私たちは当事者を耳目にしてこそ、一般論から脱出し自他の個性を承認できる共生社会へ向かうと。同時に、人権と平等社会を求めながら。岩室氏に熱く感謝します。(滝田衛)

日本社会から思い切って飛び出すこと 逗子市在住 橋本由美子

御登壇いただいた川辺さん、新舛さん、涌井さんのお話、他の出席者の皆様のお話から大変たくさんのものを学ばせていただきました。このような機会を頂戴できましたこと、改めて御礼申し上げます。親として、大人として子どもたちとどうやって同じ方向を見つめていけるかを、私なりに再度考えながら「七里が丘こども若者支援研究所叢書」を読ませていただいております。

私もよそで、不登校・引きこもりの当事者の方や親御さんに我が家の経験などをお話する機会が度々ございます。我が家の息子や、同じように引きこもり経験のあるお子さんがカナダでそれぞれの自分の道(進学だけでなく調理師等の専門職に就いた子もいます)を進んでいく様子を観ていて、日本社会から思い切って飛び出すことは、引きこもりから社会復帰する一つの方策であろうと実感してはおりますが、「留学(カナダに限らず)」は、かなり経済的な負担が大きいので(ウチも老後資金をつぎ込むことに…)、お勧めすることには消極的にならざるを得ませんでした。

昨日の講演会に出席させていただいたのち、私にも何かもってできることはないかと考えております。息子や仲間のカナダでの実体験+カナダの教育制度や社会事情と日本のそれとの比較を発信し、不登校や引きこもりの人たち、またすべての子どもたちにとって、日本の教育制度や社会福祉制

撮影者川辺さん自宅のりんご



度等をどう改善していったらいいかという問題提起ができるのではないかと。またはそこまで大袈裟でなくても、現行の制度を制度としてはすぐには改善できないとしても、親や大人の認識をどう変えていけば、子どもが追い詰められないでいられるのかを考えるきっかけにもらえるのではないかと。

それぞれの風 “総会のようなもの”で承認をいただきました研究所事業の紹介です。

- 新舛秀浩さん「すぐそこにあること執筆発行」事業：月刊「すぐそこにあること」を研究所事業とします。今回発刊の『すべての人たちへ 生きることの願いを込めて All of すぐそこにあること』の経費を研究所が負担します。販売もしますので、ご希望の方はご連絡ください。会員:100円+送料、非会員:300円+送料 ※後払い URL <http://blogs.yahoo.co.jp/shinmasuhidehiro2002>
- 涌井貴暁さん「訪問・外出支援 マジェスティック MAJESTIC」事業：涌井さんの経験を生かし、外出希望の方の相談寄り添いを進める活動を研究所の事業とし経費の負担をします。ご希望の方はご連絡をください。URL <http://www.geocities.jp/chickennandayo/>
- 龍崎明信さん「Little Edison 夢中のステータスを上げたい」事業 龍崎さんは、いじめ・自死などの子ども若者の課題について、自己肯定感を高める必要を感じ未来を夢見る活動を応援する事業をすすめます。当面は、地元横須賀市中学生のロボコンの活動にある沢山の夢中を撮影し写真冊子として配布します。活動と資金を支援します。URL <http://little-edison.com/>

【ご参加下さい】 応援団会議は横須賀市民活動サポートセンター(サポセン)です。誰でも参加出来ます。途中参加・中座歓迎です。	9月研究所開設日程 相談時間10時～16時 土日訪問はご相談			
	1日(木)	休業	25日(日)	応援団会議
	5日(月)	休業	26日(月)	相談室
	8日(木)	タキタ塾	29日(木)	タキタ塾
	12日(月)	相談室	30日(金)	通信発送日
	15日(木)	タキタ塾	応援団会議は午後2時～4時	
	21日(水)	県立秦野高校講演会	通信発送作業午後2時 サポセン	